

平成三十年三月投句

鶉ならしの神事鶉と主低頭し

しやがみこみ何か探す子春田かな

菜の花や幼児は背伸びしてピース

逃げ惑ふ小魚の川みくさ生ふ

飛行機は低く北へと鳥曇

町の音遠くに聞こゆ春一日

吊り革の上ぬいぐるみ春のバス

春野菜白湯に味はふ苦味かな

をがたまの花の梢に雲流れ

勝利

東風の川石に鶉のゐて動かざる

虎枝や地区パトロール自転車で

鶉ならしや娘鶉匠の父を継ぎ

雲雀東風羅漢五百の顔さまざま

梅ヶ香に寢息おだやか看取りの夜

春潮や化石の混じる崖に寄す

光子

節子

由紀子

真理子